

Writing Support Center Newsletter

ライティングサポートセンターニュースレター

No.009 発行日：2026年5月1日

ライティングサポートセンター・ニュースレターは、当センターの活動を、先生方により知っていただき、ご活用願うこと、学生に向けて利用を促していただくことを目的に発行しています。

巻頭言

ライティングサポートセンターとともにつくる アカデミック・ライティング入門

ライティングスーパーバイザー 島村 健司

学習支援・教育開発センターが提供する教育教養科目「アカデミック・ライティング入門」が開講されて、今年で2年目を迎えました。この科目は、半期間の開講で、新1年生をおもな対象として、大学の学びで必要となるレポートや卒業論文などの学術的文章を書くための基礎的な能力を養うことを目的としています。本科目が特徴的なのは、この目的を基礎的な地点からさらに個別具体的に発展させるために、ライティングサポートセンター（以下WSC）との連携が織り込み済みの設計になっている点です。なぜこの目的を発展させるためにWSCと連携するのかといえば、本格的に論文にとりくんでいくようになると、WSCでおこなっているようなサポートが効果的な一面を持っているからです。学生一人ひとりが困ったり不安だったり、もっとよくしたいと思ったときに、WSCを活用するという選択肢があるということを体感しておいてほしいと考えています。ここでは本科目がWSCと連携をしている具体的なあり方を紹介します。

本科目では、WSCでの相談経験を通じて、自らの課題に向き合う自覚を促すことをねらいとしています。WSCと連携している課題は、序論を書く課題①、序論＋本論を書く課題②、さらに課題②に結論・注・参考文献を加えたフルスタイルの期末課題、この三つです。注および参考文献については、課題①・②の段階から、それぞれの内容に応じて記すように指示しています。このうち、課題①と②は、WSCでの相談を必須とし、期末課題は任意としました。これらの課題では、作成するためのテンプレート（Word）を用意してあります。このテンプレートには「WSCを利用した際の基本事項」という項目を設けて、なにを聞いたのか、チューターのアドバイスを受けてどのように生かしたのか、などを記してもらうように設けてあります。学生自身がWSCをどのように利用したのか、それが自分の課題にどう役立ったのかを自覚できるように配慮しています。

受講生の課題に向き合う自覚は、相互評価チェックシートでも促しています。このシート（Excel）は、「テーマ設定」や「問いの設定」など、アカデミック・ライティングの観点から、評価軸の項目とレベルごとの評価内容の説明とを交差させたループリック形式となっています。自分の課題が評価軸の項目ごとにどのようなレベルにあるのかを入力する箇所があり、各項目のレベルを入力すると、レーダーチャートが開く仕様で視覚的に認識できる設計にしています。このシートは、それぞれの課題で用意しており、自分だけでなく受講生どうしでも評価し合うようにしています。自分を書くだけでなく、他者が書いたものを読み取ることからアカデミック・ライティングの要点をつかむことができます。自己評価・他者評価から自分の課題にたいする自覚を促し、さらなる改善を意識してもらいます。

（次頁へつづきます）

このルーブリックは、WSCでの相談対応でもチューターに活用してもらっています。受講生とチューターのあいだでも、その受講生が書いた課題とこのルーブリックを照らして、具体的に現状がどうか、今後どのようにすれば向上させられるのかということに役立てることができます。さらに、チューターのなかから2名にTAをお願いし、課題の添削をしてもらっています。このTA業務でもルーブリックを活用してもらっています。

この科目の成果は、思わぬところからもわかりました。この科目のほかに担当させてもらっている授業があります。受講生のなかに両方を履修している学生がいました。その授業は、細に入って論証型レポートのノウハウを教える設計になっていません。「アカデミック・ライティング入門」を受講していた学生は、この授業で質の高い期末レポートを提出していました。思わぬところから確認できた成果に静かな手ごたえを感じています。

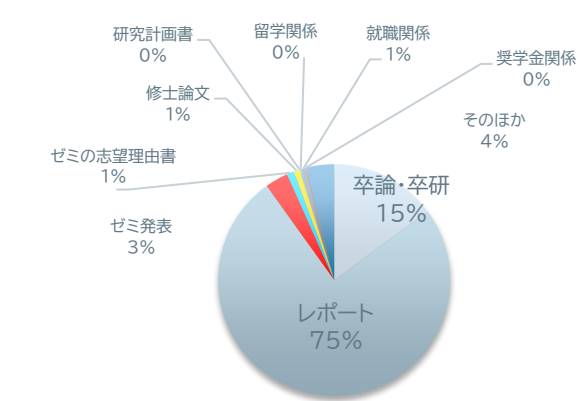
ご報告2025年度の実績

(1) 相談者総数：884人（対面：869人、オンライン：15人）

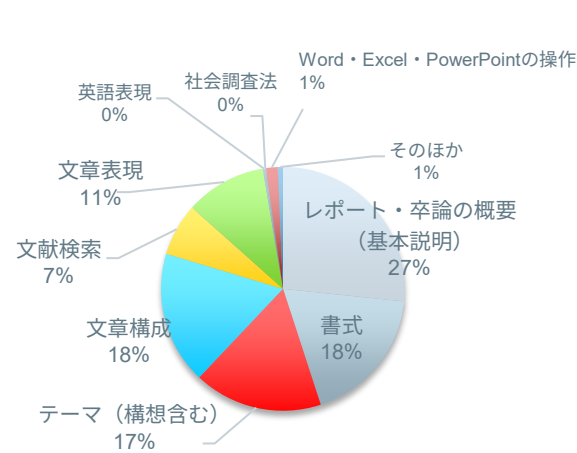
＊対面相談枠は45分の設定としているため45分の区切り、オンライン相談枠は60分の設定としているため60分の区切りで、それぞれで算出しています。以下、特記しないかぎり、これにしたがって算出しています。

(2) 相談内容

【相談内容種別の割合】



【相談内容性質の割合】



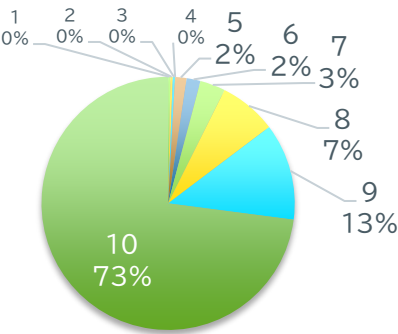
(3) 学部（大学院）・学年別 ＊単位：人 表中、「国際」は「国際文化」を、「先端理工」は「理工」を含む。

学年\学部	文	心理	経済	経営	法	政策	国際	先端理工	社会	農	実践 真宗学	短期大	学年合計
1年	220	5	20	2	9	11	82	29	11	141	—	0	530
2年	73	0	2	0	0	1	19	4	3	14	—	5	121
3年	25	0	0	1	0	0	18	4	1	7	—	—	56
4年以上	50	—	19	20	9	0	32	2	8	18	—	—	158
修士	9	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3	—	15
博士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0
研究生	0	—	0	0	0	0	0	0	2	0	—	—	2
科目等 履修生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	1
交換 留学生	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	1
学部合計	379	5	41	23	18	13	151	41	25	180	3	5	884

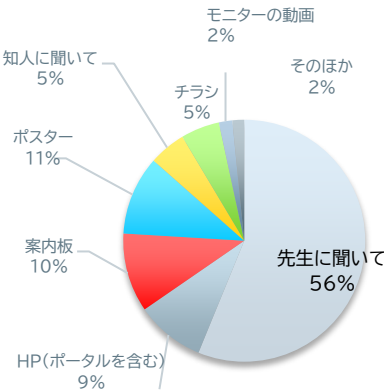
(4) 学部・研究科・学科別 ＊単位：人

学 部・研究科		学科・専攻・課程	相談者数	合計		参考 昨年	
				各学部／ 各研究科	学部／ 研究科		
学部	文	真宗	186	370	867	168	
		仏教	41			177	
		哲学・哲学	31			9	
		哲学・教育	3			27	
		臨床心理	0			7	
		歴史・日本史	5			27	
		歴史・東洋史	7			7	
		歴史・仏教史	12			21	
		歴史・文化遺産学	10			6	
		日本語日本文学	66			71	
		英語英米文学	5			4	
		交換留学	3			1	
		科目等履修生	1			0	
		心理	心理学科			5	5
	経済	—	22	41		5	
		現代経済	15			32	
		国際経済	4			0	
	経営	経営	23	23		50	
		—	0			4	
	法	法律	18	18		17	
		—	0			1	
	政策	政策	12	12		16	
		国際	グローバルスタディーズ	68		151	120
	国際文化		83	67			
	先端理工	数理・情報科学	8	39		1	
		知能情報メディア	5			2	
		電子情報通信	7			7	
		機械工学・ロボティクス	4			11	
		応用化学	10			6	
		環境科学	5			8	
		社会	総合社会学科	8		23	—
			社会	6			41
			コミュニティマネジメント	0			37
			現代福祉	9			24
		農	植物生命科	1		180	0
			資源生物科	0			3
食品栄養	45		3				
食料農業システム	49		20				
生命科	32		7				
農	53		19				
短期大	社会福祉	5	5	32			
研究科	文学	仏教学	0	9	15	2	
		哲学	2			0	
		日本史学	6			1	
		日本語日本文学	1			0	
	実践 真宗学	実践真宗学	3	3		0	
	経済学	—	0	0		4	
	政策学	政策学	1	1		0	
	理工学	環境ソリューション工学	2	2		0	
	社会	社会学	2	2		17	
		社会福祉学	0			1	
	国際学	言語コミュニケーション	0	0		2	
		国際文化学	0			2	
合 計			884	884	884	1089	

(5) 利用者の満足度
(最高値10、最低値1)



(6) 広報の効果

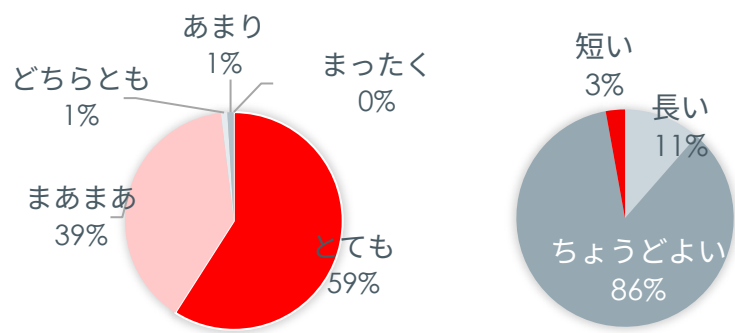


(7) 講習会

テーマ		レポートの タイプを 知る	レポートの 実際を知る	卒業論文・論証型レポートを スムーズに作成するために		レポート・卒 業論文に 役立つ資料の 探し方	引用の仕方と 注・参考文献 の書き方	合計
				【はじめが重 要な序論編】	【論証がかな めの本論編】			
日程		5/15 (木)	5/16 (金)	10/10 (金)	10/16 (木)	10/17 (金)	10/20 (月)	
担当者		高石	島村	笹原	釋氏	大塚	尾寺	
参加者	深草	38	20	5	7	5	5	80
	瀬田	13	15	2	0	3	0	33
	オンライン	38	26	20	15	12	11	122
合計		89	61	27	22	20	16	235
予約者	深草	47	33	8	8	10	11	117
	瀬田	14	15	4	4	4	2	43
	オンライン	47	50	27	26	30	31	211
合計		108	98	39	38	44	44	371

*実施の時間帯は、12：40～13：20（昼休み）。
*深草は、和顔館アクティビティホールで実施。瀬田は、智光館B1ミーティングルームで、深草のライブ中継としました。

【参加者評価（役立ち度）】 【参加者評価（講習時間）】



ご報告 先生方・部署との連携

2025年度は、以下のような連携を行いました。

- (1) 出張講習
先生方からの要望を受けて、レポートにかんするテーマで、授業実施教室にて実施しました。
年間 **8** 件 学生受講数合計：**320**人
- (2) レポート課題
先生方がレポート課題を提示する際に当センターを活用するように受講生へはたらきかけていただき、必須／任意の別で連携しました。
年間 **8** 件（必須6件／任意2件） 相談対応数：**241**件
- (3) センター紹介
先生方がレポート課題を提示する際に、授業実施教室にてセンターの紹介をさせていただきました。
- (4) おすすめ本（深草・大宮・瀬田図書館との連携）
テーマを定めて、チューターが選書し作成したレビューを展覧しました。
展覧冊数は、各図書館で、学期ごとに15～18冊となりました。
〈第1学期〉 期間：6月～授業実施期間
テーマ：万国博覧会とは
〈第2学期〉 期間：11月～授業実施期間
テーマ：「令和の米騒動」から何を考える？



ライティングサポートセンターでは、以下の要領で先生からの依頼を受けて出張講習を実施しております。ご活用くださいますよう、ご案内申し上げます。

【出張講習の要領】

1. 出張講習の実施者・対象・実施対応日・実施場所

- 1) 実施者：スーパーバイザー、もしくはチューター・リーダー（1名）
- 2) 対象：原則として、1年生の受講科目を対象とします。
ただし、その他の授業についても、ご相談の上、実施することを検討させていただきます。
- 3) 実施対応日：月～金曜日 10：00～17：00
- 4) 実施場所：授業実施教室

2. 実施内容

以下の4つの講習テーマを用意しております。そのなかから1つをお選びください。それぞれの概要は、次頁をご覧ください。所要時間は各テーマおよそ60分です（センターの紹介やアンケートに少々時間をください）。

- ① レポートにおけるテーマの絞り方
- ② レポートの作り方A——構成を知ろう
- ③ レポートの作り方B——手順を知ろう
- ④ レポートの作り方C——引用の仕方・注と参考文献の書き方

3. 実施までの経緯

- 1) 連絡先 wsc@ad.ryukoku.ac.jp
- 2) 連絡から実施までの流れ
 - ① 実施希望日の2週間前までにご連絡ください。
 - ② その後、簡単な打ち合わせをお願いします。
 - ③ 授業実施教室にて実施します。
- 3) ご連絡いただく内容
 - ① 先生のお名前
 - ② メールアドレス
 - ③ 該当科目名
 - ④ 受講者数
 - ⑤ 実施内容（「2. 実施内容」①～④の中から1つ選んでください。）
 - ⑥ 実施希望日（候補日を3日ほどお知らせください。）
 - ⑦ 実施場所（設備の面で、教室変更をお願いする場合があります。）
 - ⑧ そのほか（ハイブリッド形態で実施するなど）

4) 注意事項

- ・極力実施できるように努めますが、日程が合わないなど、やむをえず実施できない場合はご了承ください。
- ・センターの出張講習は、1つの講義科目につき、1回とさせていただきます。



【各講習テーマの概要】

①レポートにおけるテーマの絞り方

レポート課題を提示されてもどのように取り組んでいけばよいのかわからない学生が数多くいます。本講習では、レポート課題に則して、自分なりの観点を見出していく過程を説明します。まず、自分のレポート課題に対する興味のありどころを考える方向です。次に、興味や関心があることを軸に検索し、収集した情報をもとに広がりや深みを探ります。最後に、レポート課題との関係性を考えます。このような流れを把握してもらう内容になっています。

②レポートの作り方A ――構成を知ろう！

本講習は、レポートを作成する基本的な事項として、その構成を把握してもらう内容となっています。具体的には、まず、レポートを難しく感じる原因に、問いの設定および自分の考えが不明瞭なままに書きすめようとする点にあることを解説します。自分の考えが明確にできたら、次にそれを読み手に分かりやすく伝えなければなりません。そのためのレポートの基本的な構成として、序論、本論、結論の役割について簡潔に説明します。なかでも序論の重要性を強調して解説します。序論ではそのレポートで自分が主張したいことを明確にし、本論は序論における主張の裏づけとしての役割を担います。結論は序論との対応を確認し、本論の要点のみを簡潔にまとめます。そのような説明のあと、レポート見本を用いて確認します。

③レポートの作り方B ――手順を知ろう！

本講習は、レポートを作成していく際の思考の仕方と、作成過程を理解してもらうことが目的となっています。具体的には、「メモ」「構想表」を用いることを重視して説明します。その際に「読む」「調べる」「メモ」の過程を、必要に応じて「メモ」や「構想表」の実例を示しながら解説します。「構想表」については、序論・本論・結論の要点を踏まえながら、「メモ」を活用して論理の道筋をつくっていくあり方を提示します。また、推敲の必要性についても付言し、完成に至るまでの経緯を知ってもらいます。

④レポートの作り方C ――引用の仕方・注と参考文献の書き方

本講習は、引用の大切さを理解すること、そして注・参考文献の書き方をマスターすることが目的です。これらの表記方法については、おおそAPAスタイルに則っています。具体的には「直接引用する方法」や「要約引用する方法」を説明し、実際のレポートを交えて理解を促します。その後、実際に引用したものに注をつけ出典を掲示するという一連の工程を示します。最後に様々な参考文献（インターネットも含む）の書き方を説明します。

ご案内

授業実施教室でのライティングサポートセンター紹介・説明

ライティングサポートセンターでは、学生に利用を促す一環として、先生方が授業をされている教室へ出張して、当センターの紹介・説明を行っております。所要時間は、10分程度です。概要は、つぎのとおりとなっております。

【ライティングサポートセンター紹介・説明の概要】

- (1) ライティングサポートセンターとは
センターの基本姿勢や対応範囲などを説明します。
- (2) よくある相談
具体的にどのような相談がよく寄せられるのかを紹介します。
- (3) 参考資料
ごく簡単にセンターで用意している資料について紹介します。
- (4) 本年度の開室
本年度の開室情報を提示します。



ライティングサポートセンター（以下、センター）主催の講習会を下記のとおり実施いたします。つきましては、教員各位からも学生に講習会開催についてご案内いただきたくご依頼申しあげます。センターの利用者アンケート結果では、利用したきっかけの半数以上が先生方からのご紹介です。少しでも多くの学生に情報を届けるため、可能でしたら授業のなかでご周知いただけますと幸いです。ご協力いただける場合は、先生方の大切な授業の時間を割いていただくことになり、誠に申し訳ございません。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申しあげます。

講習会では、チューター・リーダー（大学院生）がパワーポイントを用いて説明いたします。実施は、対面とオンラインのハイブリッド形式を予定しております。

記

1. 講習会の内容

- ① テーマ：レポートのタイプを知るーレポートを書きはじめる前にー

日時：2026年5月11日（月）12：40～13：20

概要：レポートと作文とのちがい、整理型と論証型のとらえ方を解説する内容です。

- ② テーマ：卒業論文・論証型レポートをスムーズに作成するために【はじめが重要な序論編】

日時：2026年5月18日（月）12：40～13：20

概要：多くの学生が難しいと感じる論証型レポートでポイントとなる序論を解説する内容です。

- ③ テーマ：レポート・卒業論文に役立つ資料の探し方

日時：2026年5月22日（金）12：40～13：20

概要：レポート例を用いて、どのように資料を探してきたのか、検索方法と本文での実際を解説する内容です。

2. 参加方法

事前のお申込みをお願いしております。ポータルサイトのアンケートからお申し込みください。

対面：深草キャンパス 和顔館 1F アクティビティホール

※ 当日の講習会は、オンライン画面を録画します。

また、対面会場を撮影する場合があります。あらかじめご了承ください。

オンライン：GoogleMeet ※ 当日参加URLをメールにてお送りします

3. 学生向けのチラシ

龍谷大学ライティングサポートセンターのWebページにアップしています。

ダウンロードしてご利用いただけます。

また、必要部数を申し出ていただければ、印刷してお渡しすることもできます。

ライティングサポートセンター <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>



平素よりライティングサポートセンター（以下、センター）の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、標記の件について、センターを学生に周知していただきたく、下記のとおりご依頼申し上げます。先生方におかれましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

センターでは、学生へのアカデミックライティングの指導を主な目的として、「学生に考えさせる」（答えを教えず、考え出す機会を与える）ことを基本姿勢に、大学院生を中心としたチューターがレポートや論文作成など、書くことに関するサポートを行っています。センターへのご意見・ご質問などがございましたら、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

記

ご依頼の内容

学生にセンターについて以下の事項について、ご紹介ください。

1) センターの概要

レポートや卒業論文など書くことにかかわる相談に応じるところです。センターでは、大学院生のチューターがいっしょに考え、学生のみなさんが自らの答えにたどり着けるようサポートします。レポートや論文、レジュメなどを作成するにあたって、例えば、次のようなケースで当センターをご活用ください。

- レポート課題や卒業論文などについて、どのように取り組めばよいのかわからない。
- 書いてみたものの、文章に自信がないので他の人に意見を聞きたい。
- 根拠になる資料を探したいけど、どうすればいいのかわからない。
- 英語でレポートを書かないといけないけど、形式や表現に自信がない。

*資料も用意しています。「レポート書式見本」や「レポートを書くためのチェックシート」など、ほかにも多数用意しているので、相談時、チューターに聞いてみてください。

2) 利用方法

各学舎開設場所まで直接お越しください。

【日時】 4月20日～7月27日 11:30～16:00（受付15:45まで）

*基本は授業実施日に準じます。

【場所・曜日】

深草：和顔館 1階 スチューデントコモンズ 月～金

大宮：東翼 2階 スチューデントコモンズ 月～水

瀬田：智光館 B1階 スチューデントコモンズ 水～金

【利用方法】 対面・オンラインでの相談が可能です。

◆ 対面での相談について（予約不要）

◆ オンラインでの相談について（要予約）

ホームページ（<https://calendar.app.google/pQy5TmASQ9sVwaks9>）から予約が必要です。



<参考> ライティングサポートセンターの紹介動画（1分18秒）

https://drive.google.com/file/d/15eKcrDR-nP0p5j0ciLVksDYaJgL_hPBH/view?usp=sharing

